

- 新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵略が農産物、肥料等の資材の価格上昇を引き起こし、**食料供給の確保、食料安全保障が世界的な課題。**
- こうした中、増加する人口を養うための**農業生産性の向上と、農業生産による環境負荷の低減を両立**させることが急務。
- 国内の農業生産を担当する農業大臣が集まるG 7 農業大臣会合では、**食料安全保障をテーマに、特に持続可能な農業について**議論し、その内容を踏まえた**G 7 農業大臣声明**と、G 7 各国が取り組むべき行動を要約した「**宮崎アクション**」を採択。

会合の概要

- ◆ 日時：令和 5 年 4 月22日（土曜日）・23日（日曜日）
- ◆ 開催地：宮崎県宮崎市
- ◆ 会場：シーガイアコンベンションセンター

議論の内容

- ◆ 強じんて持続可能な農業・食料システムの達成に向けて各国間で議論
- ◆ 特に、農業の持続可能性を向上させるための各国の取組を紹介し合った上で、G 7として世界のために何ができるか、これから注力すべき分野は何かを議論
- ◆ 我が国からは、みどりの食料システム戦略を紹介して、イノベーションの開発普及の重要性を主張

例) イノベーションの具体例

・ドローンによる農薬散布



・ペレット堆肥



サイドイベント・現地視察・レセプション

◆ サイドイベント

①「持続可能な木材利用」、②「フードサプライチェーンにおける食品産業の貢献」、③「気候変動に対応するイノベーションと行動（トーマス・ビルサック米国農務長官の基調講演）」をテーマにセミナーを開催。

◆ 現地視察

日本有数の農業地帯 宮崎県の名産品であるマンゴー農園の視察、農業高校でのスマート農業実演。

◆ レセプション

日本の食品の輸出促進に資するよう、和牛、青果物、水産物等を用いた食品を提供。

